

報道各位

2019年3月6日

株式会社日本能率協会コンサルティング
代表取締役社長 鈴木 亨

第4回ものづくりIoT実態調査 調査結果を報告！
IoT導入は着実に進むも取り組みにおいては企業規模別・業界別の格差も顕著に

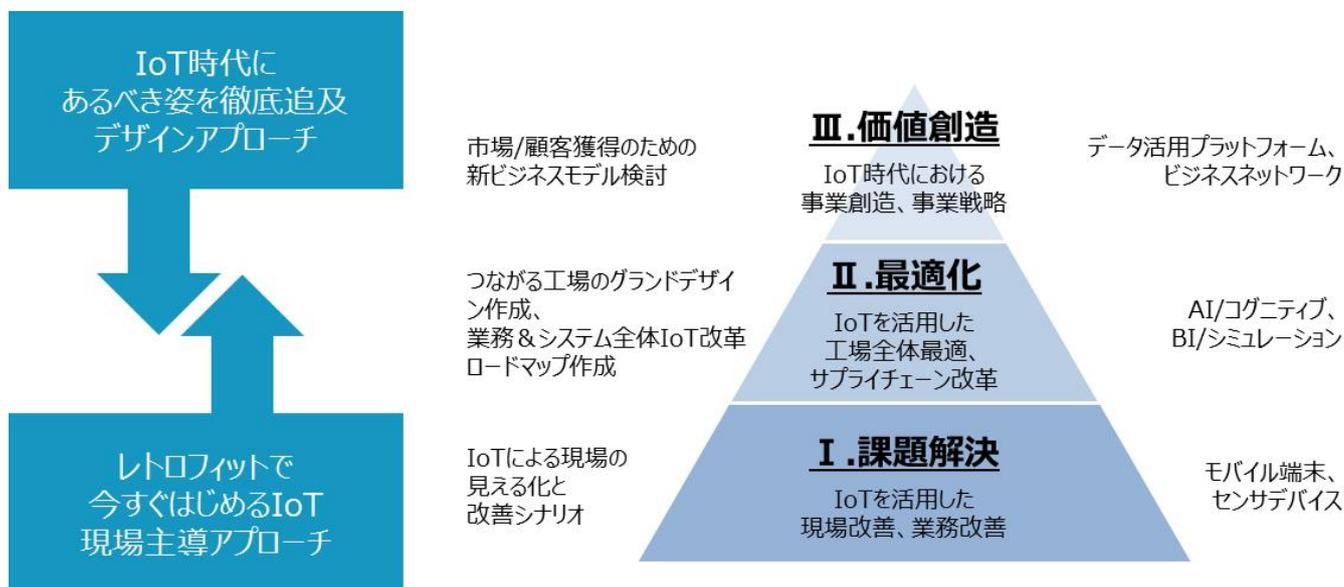
株式会社日本能率協会コンサルティング（以下、JMAC／本社：東京都港区・代表取締役社長：鈴木亨）は、2019年3月6日（水）、JMAC東京本社において『第4回ものづくりIoT実態調査』調査結果について報告をいたしました。

2015年よりスタートしたこの『ものづくりIoT実態調査』は、ドイツにおけるインダストリー4.0やスマートファクトリー化など、大きなうねりとなったIoT（Internet of Things）が日本のものづくりの現場においてどのように導入され、実行化されているのかを調査したものです。

今回の第4回調査においては、着実にIoTが現場に導入されつつあることが伺えるも、その取り組み実態においては企業規模別・業界別の格差も生まれてきていることが分かりました。

【JMACの「ものづくりIoT」の考え方】

経営革新/現場改革ノウハウに、IoTシステムインテグレーションを融合させていく。



【調査結果概要】

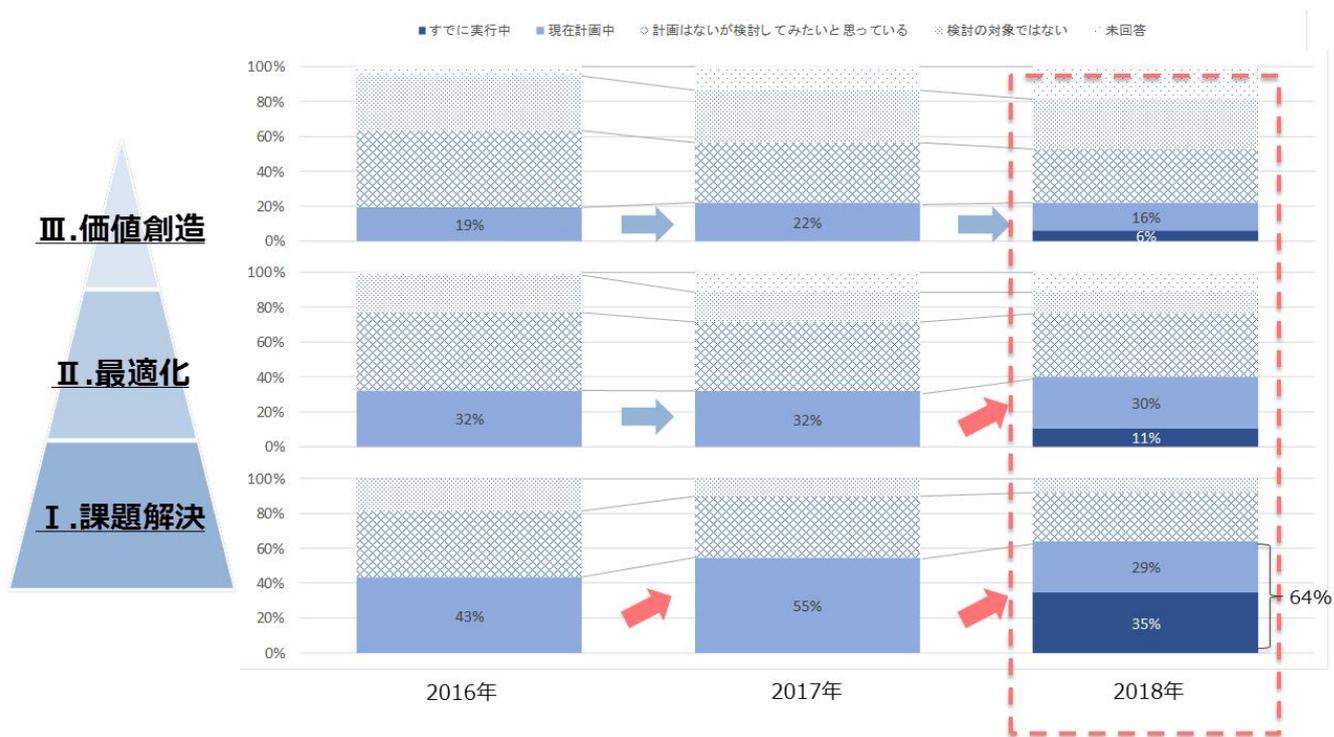
今回の調査結果より、以下3点の傾向が見て取れた。

- IoTで現場の課題解決に取り組んでいる、あるいは取り組もうとしている企業は着実に増えている。（⇒①）
- IoTの取り組みにおいて、企業規模別、業界別に差が広がっている。（⇒②）
- IoT関連技術ではAIに対する関心の高さが見て取れる。（⇒③）

①IoTのレベル別取り組み状況：3カ年比較

取り組み領域別のここ3年間の動向を見ると、「Ⅰ.課題解決」領域での活動が着実に増えている。(43%→55%→64%)

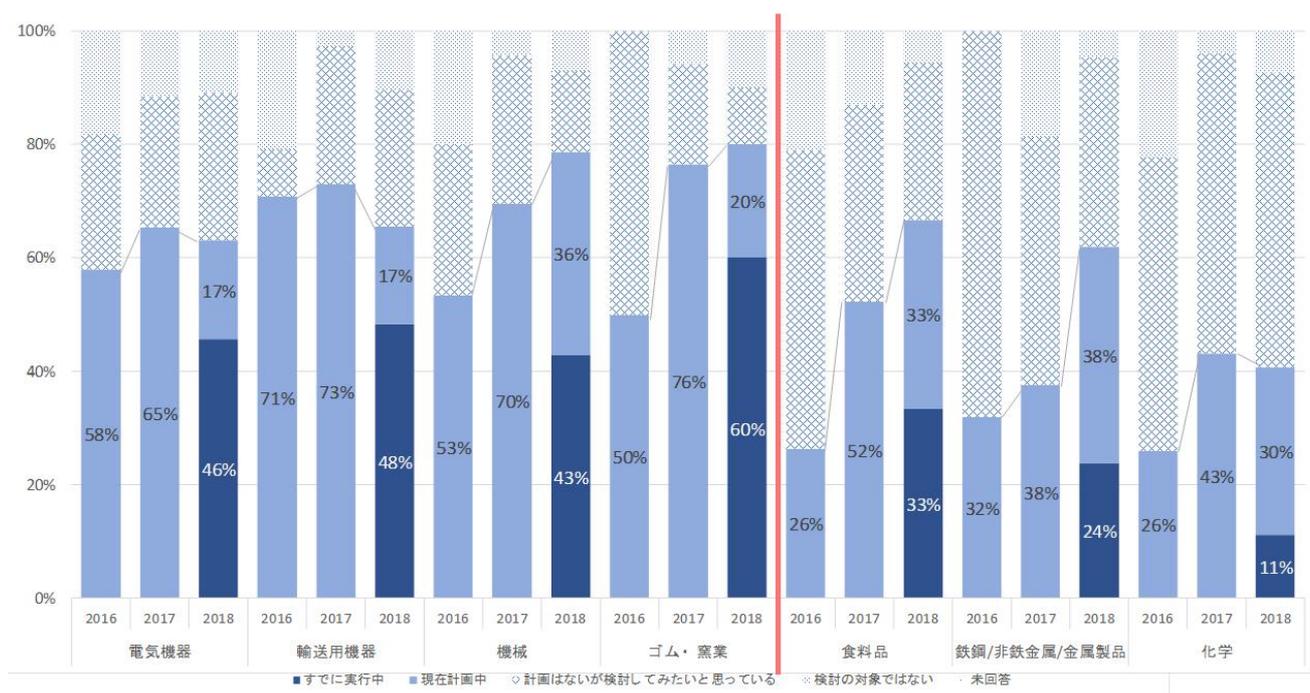
「Ⅱ.最適化」領域ではやや増加しているが、「Ⅲ.価値創造」領域ではほとんど変化がない。



②IoTのレベル別取り組み状況：業界別比較

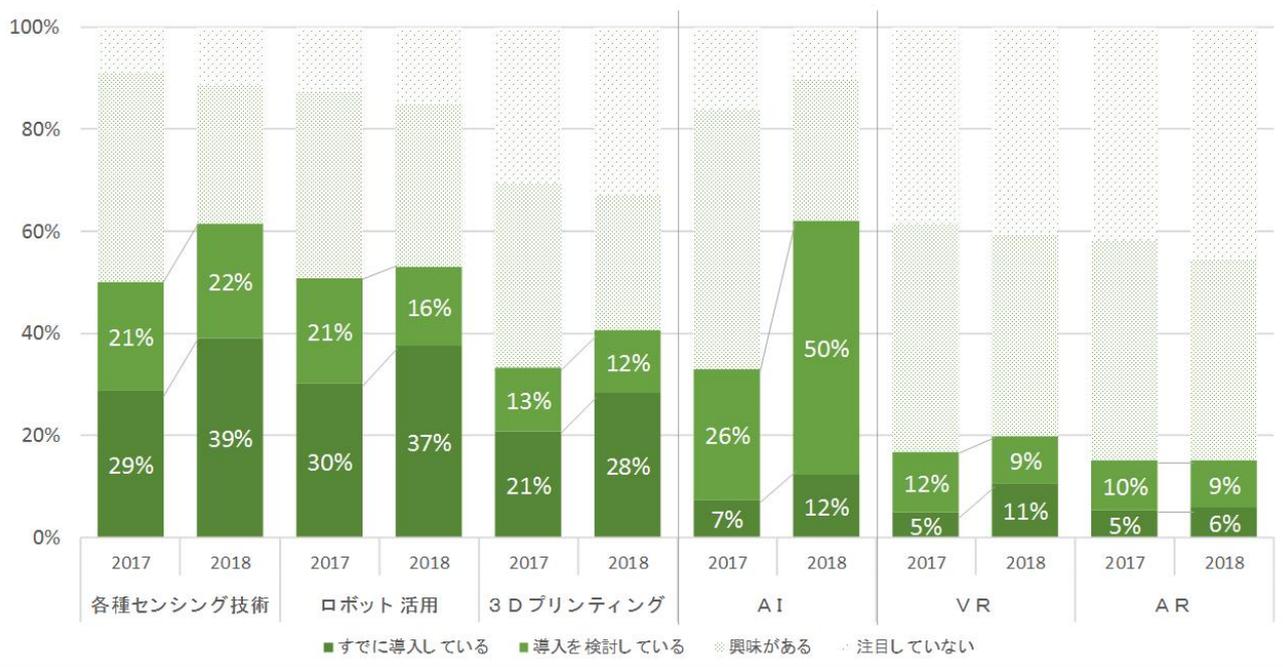
業種間での取り組みには差が見られる。

実施・計画率の高い業界は「電気機器」「輸送用機器」「機械」「ゴム・窯業」である。「食料品」「鉄鋼/非鉄金属/金属製品」は以前は低かったが順調に実施・計画比率が高まっている。「化学」は伸びか鈍い。



③IoT 注目技術

IoTに関連する技術については、昨年同様「センサー」「ロボット」「3Dプリンター」は導入・導入検討の比率が高い。AIについては、導入検討している比率が急増しており、関心の高さが伺える。



【調査概要】

アンケート実施期間	2018年12月18日～2019年1月21日
アンケート方法	JMACの顧客リストより製造業のカテゴリーを抽出し、Webアンケートを実施。 自由記述も含め設問項目数は25問
アンケート依頼総数	12,025件
有効回答数/率	246件 (2.05%)

《株式会社日本能率協会コンサルティング 概要》

社名： 株式会社日本能率協会コンサルティング (JMAC)
 所在地： 〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル7階
 TEL: 03-4531-4300 (代表) FAX: 03-4531-4301 <http://www.jmac.co.jp>
 創立： 1980年4月1日 (創業1942年)
 資本金： 2億5千万
 社員数： 約300名
 業務内容： 経営コンサルティング業。戦略、マーケティング&セールス、R&D、生産・TPM[®]、サプライチェーン、組織・人事、BPR、ITビジネスなど、クロスファンクショナルなコンサルティングサービスを展開。

■広報・取材・その他に関するお問合せ先：

ビジネスイノベーション推進本部 広報担当：豊島 涼子

TEL: 03-4531-4307 FAX: 03-4531-4301 携帯: 080-9356-5138 E-mail: ryoko_toyoshima@jmac.co.jp